

## 令和元年度第1回福岡県交通対策協議会 議事概要

1 日 時 令和元年10月23日(水) 10:00~11:15

2 場 所 吉塚合同庁舎 603A 会議室

### 3 議 事

- (1) 福岡県交通ビジョン2017の実施状況報告について
- (2) 福岡県バリアフリー交通推進事業補助金について
- (3) 福岡県自転車安全利用条例の見直しについて

### 4 議事概要

- (1) 福岡県交通ビジョン2017の実施状況報告について

事務局より、福岡県交通ビジョン2017に掲げた各種施策の実施状況及び数値目標の進捗状況について説明を行った。

#### ○委員からの主な意見

(井上(順)委員) 高齢者をはじめとする事故防止対策については、県警が、明るい服装の着用を推進する取り組みを行っており、これら啓発の取り組みを共同して行っていければと思う。

(事務局) 明るい服装や反射材の着用は、年間を通じて様々な取り組みで促進している。今後、年末にかけて交通事故は増加する傾向にあり、引き続き、そういった取り組みについて、関係機関等と協力をしながら行っていきたいと思う。

(吉武委員) 県内の交通事故は減っているが、高齢者の交通事故は増加している。高齢者に免許返納を求めていくとなっているが、代替交通がないと難しく、コミュニティバスやデマンド交通の導入促進を、併せて取り組んでいくことが重要だと考える。加えて、高齢者のコミュニティバス等の利用が促進されない背景として、バリアフリー化の問題もあるかと思う。ノンステップバスの導入率も、29.6%ということで全国と比較しても低く、これも伸ばして行ってほしいと思う。

鉄道・バスターミナルの段差解消率は、1日の利用者が3000人未満の施設を含めると、達成率はどのくらいになるのか。また、目標の設定として、1日の利用者が3000人以上の施設を対象としていることについて、変更することは考えていないのか。

(事務局) 国の移動円滑化の促進に関する基本方針の1つの基準ということで設定しているが、3千人未満のところでも、高齢者や障がいのある人への配慮が必要だと考えている。現状では、3千人未満の統計は把握していないが、今後、市町村との協議の場で、地元の実情に応じた数値目標の設定について、必要があるかどうか併せて協議していきたいと考えている。

(西尾委員) 交通施設の安全性向上と長寿命化の推進について、先の台風被害にもあったように、安全施設、交通施設、標識関係等で、大きな台風が来た時に、すぐ折れたりするということもある。外から見た時点では状況が分からないため、非破

壊検査も必要かと思う。特に、道路標識について、下の部分が老朽化・腐食に伴って倒れるという話も聞く。ここでは指摘がないが、この点について、どのように進められているのか、計画や考えがあるのか。

(事務局) 標識の基礎の部分については、以前から道路のパトロールを行っており、台風の前などの時期には、緊急的に、例えば揺らしたりして点検している。また、大きい標識や照明等についても、基礎部が腐食していないかどうかという点検確認は随時行っている。

(古川委員代理) 九州運輸局では、九州における鉄道の維持・活性化のあり方という調査報告書をまとめている。鉄道事業者や市町村担当者にヒアリング等を行い、その結果、両方で意識に開きがあると、コミュニケーションがお互い取れず、それぞれが活性化策をばらばらにやっているような状況があるという点を指摘した。例えば鹿児島県においては、鹿児島県庁が主体となり、JR九州、肥薩おれんじ鉄道の協力のうえ、市町村の担当者と鉄道事業者が鉄道の利用策を一緒に考えていく検討会を立ち上げた。ぜひ、こういった取組みを各県に広げていきたいと思っている。福岡県にも地域鉄道活性化協議会というものが開催されているということは言及されているが、このような市町村と鉄道事業者のコミュニケーションの場を、県としても創出し、運輸局としてもそれに協力したいと考えている。

(稲永委員) 広域運行に関して、民間の事業者が広域で運行している路線が廃止され、そこをコミュニティバスで補うといった形であるとスムーズに開始できるが、一方で、市町村の中ですでに閉じた形でコミュニティバスなど運行している場合、隣の市町村と広域運行をやるという話になると、1つハードルが高くなる。それぞれ色々な思いを持っており、なかなか話し合いも進まないことが現実には起きていると思う。それぞれの市町村の担当の思いを、上手く繋げるようなコミュニケーションの場を提供していくことを検討してほしい。

(事務局) 御指摘の通り、広域運行は、なかなかハードルが高いこともあるかと思う。市町村の公共交通会議や圏域ごとに設けている会議に参加し、地元のニーズや要望があるということがあれば、他のエリアでの優良事例や県としての施策を紹介している。広域運行については、少しでも広がるように努めている。

(井上(順)委員) 市町村での話し合いというのは、お互いの財政事情も違い、メリット・デメリットを模索する中で、決断ができずに中々進まない。大野城市を例に挙げると、県が目指しているものを示し、お互いが補い合いながら公共交通を補完していこうということで、筑紫圏域の市町村で協議会を立ち上げるように、県が率先して呼びかけることが必要だと思う。

(事務局) 御指摘にあった、特に筑紫地域については、事務レベルではあるが、5つの市で勉強会、圏域会議を立ち上げており、その中で広域運行、相互乗り入れ等を勉強している。御指摘の通り、それぞれの財政事情があり、一挙にとはいかないが、例えば、進行中の西鉄の連続立体交差が完成したときには、この駅での乗り継ぎ・乗り入れができる様にといった構想などは考えている。

(辰巳委員) 立地適正化計画策定市町村の目標値について、上方修正が行われているが、

今回の11市町村という目標の修正は、すでに動いているもの、動き始めたものも計上したものなのか、あるいは県の方でこれから更に着手するというものを含めて目標値に設定しているのか。

(事務局) 目標値は、すでに動いているところだけでなく、これから新たに計画を策定してほしいというところも含めて、11と設定している。

(辰巳委員) 上方修正をするということであれば、逆に下方修正も検討できるのではと思う。努力が必要なもので、県内の延べ宿泊者数が、昨今の日韓問題で少し影響を受けていると思う。現状値が平成30年となっているが、その後の状況を教えてほしい。それに対して、かなり影響を受けているようであれば、下方修正をする必要があるのではないか。

(事務局) 現状について、影響が出てきたのが、7月8月となっており、7月の状況は約2割、8月は急激に落ちていると思われる。延べ宿泊者数は、現状値1,673万人泊に対し、韓国は減っているが、一方で、この春から東南アジアの路線も新規就航している。そういった状況を見ながら、まず令和元年度の推計値を出した上で、今後について、県全体の総合戦略も策定中のため、その中で改めて検討したい。

## (2) 福岡県バリアフリー交通推進事業補助金について

事務局より、「福岡県バリアフリー交通推進事業補助金」について、事業内容を紹介した。

### ○委員からの主な意見

(古川委員代理) 国においても補助制度があるが、いきわたっていないという現状もあり、このような補助制度を県で設定されたことをありがたく思う。福岡県においては、先日20日に、共生社会ホストタウンサミットが飯塚市で開かれたように、共生社会に向けての取組みが進められているものと承知している。九州全体で見ると、先日、祐徳自動車で、車椅子を5台まで乗せられるリフト付きバスが導入された。九州で、そういった取組みが進んでいくと思われ、運輸局としても、できることをサポートしたいと思う。県としても、今後も、引き続き、制度運用をお願いしたい。

(吉武委員) 今回の補助金は、国の補助金や他の補助金とは一緒に使うことはできないということで、事業者が120万円のうち60万円を負担するという形になる。この内容で、目標の補助対象110台を申込み率100%で3年間推移していくことが見込めそうなのか。また、申込みが少ない場合は、併用可能に変更していくといった、今後の見通しについて、現在わかる範囲で教えてほしい。

(事務局) 事業者への説明会が終わり、募集を始めたばかりで、1回目の募集が11月中旬頃までに出揃うのではないかと見込んでいる。我々としても、できるだけ使ってもらえる使い勝手の良い制度にしていきたいと考えている。今後、その募集状況や事業者からの意見を踏まえ、次年度以降の内容の修正の可否等を検討していきたい。

(3) 福岡県自転車安全利用条例の見直しについて

福岡県自転車安全利用条例の見直しについて、概要とスケジュールを説明した。

○委員からの主な意見

(井上(順)委員) 自転車事故について、フラフラと運転をすることが事故の要因となっていると思う。自転車関係事業者が集まる際に、これからのニーズとして、大人でも恥ずかしくないような、倒れないような三輪車の開発について伝えてほしい。

(事務局) 有識者会議の中で、今の御意見を伝えたい。

(長委員) 今回の見直しの中で、外国人の自転車利用者への安全教育の啓発推進として、日本語学校を対象としているが、外国人の居住者は従業者として来ている人も多く、これから増えていくと思う。そういった外国人労働者が多いところを対象にした、安全教育の普及なども進めていったほうがいいのではないか。

(事務局) 御指摘の点について、就労者に対しても啓発する必要があるため、有効な手段を有識者会議で意見を聞きながら、啓発活動を進めていきたい。

(高田委員) 自転車の活用推進に関する追加の部分で、環境整備を含む自転車を快適に利用できるまちづくりの推進とある。自転車の利用に関して、福岡県交通ビジョン2017の中で、自転車レーンの整備等が盛り込まれているが、道路の条件もあり、それだけで取り組むというのは非常に難しいのかと思う。条例に道路環境整備を含むという文言が入るのであれば、現在、福岡県内各地でビルの建て替えに伴う再開発が各地域で行われている中で、この道路環境整備として、自転車の快適空間の整備というのを推進してほしい。

(事務局) 御指摘の点も含めて、有識者会議で協議していきたい。